

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム 壽幸園

ユニット名 _____

自己評価実施年月日 平成 20 年 9 月 25 日

記録者氏名 森岡 三枝

記録年月日 平成 20 年 10 月 1 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の理念を基に住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域に根ざした理念とは、を職員全員で話し合いより判りやすく明確な理念として作り上げた	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え理解してもらえるようにしている又ミーティングや職員会において常に話し合い日々のケアの中で実践できるように取り組んでいる	○ これからも継続して取組んでいきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時や家族会時に折に触れ繰り返し伝えていく。又地域住民とのお茶会やホーム見学の場面で説明したりホームだより・地域だよりを活用したりしている。運営推進会で地域委員の方に理解して頂け協力により老人会の皆様の訪問も実現し継続している	○ 地域に出て行く機会を多く持ち関わりを持つことで自然に理解も得れると思うのでこれからも外にできる機会を意図的に増やしていくようにする
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	創立時のトラブルがあり3軒の内2軒との関係作りが難しいが日常の挨拶はもちろんの事イベントの誘いの声掛けや挨拶に出向くようにしており、畑のサツマイモの収穫を入居者の方とおすそ分けに持って行ったりしている	○ 今年も畑の芋が収穫できたら入居者の方とおすそ分けに持って行く計画を立てている
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の喫茶店、美容院の利用、スーパーの店長さんは買った商品を後から配達して下さり馴染みの関係ができています。地域コミュニティでの体操、お茶会サロンに参加しており、すこやかセンターで毎年行われるふれあい健康まつりには作品を出品し皆で見に行くようにしている	○ これからも多めに地域行事に参加して行きたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	今後地域の老人会の集まり等で協力出来ることがあれば随時行って行きたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	参加メンバーから多くの率直な意見を引き出し改善に向けた具体的な取り組みに繋げて行きたい
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	この会で日頃疑問に感じていること等が学べるように期待している
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	○	職員は虐待を正しく理解しお互いに入居者の権利が守られるように注意を払い防止に努めて行きます

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。入居者の状態変化により契約解除に至る場合は、本人を交えて家族等と対応方針を相談している</p>	○	<p>事業所として対応可能な範囲のご理解と、入居者の方・ご家族の疑問について十分聞きだせるように時間をとってこれからも対応行っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプランを立てる時や、日々の介護において入居者の言った言葉を書き取り、言葉の出ない人は表情などで察するようにし本人の意向を探っています。運営推進会議にも入居者に参加いただき意見を聞く機会を設けている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホームだよりを発行しその中で個別欄を設けケア担当から近況情報をお知らせしている。また二ヶ月に一度金銭管理出納表をご家族に確認してもらいサインを頂いている</p>	○	<p>ご家族の協力が非常に大切であり密接なる関係を築く為にも丁寧な報告をこれからも行っていく</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け折に触れご意見を伺うように心がけている、又その後の個別面談でも気軽にお話いただけるように時間をとっている。第三者苦情委員を独自に用意しており入所時に連絡先を説明手渡ししている。家族同士の話し合いの機会についてご相談したが必要ないとのことであった</p>	○	<p>これからも驕ることなくご家族の意見に耳を傾ける取り組みを行っていく</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の職員会や日々のミーティングにおいて出来るだけ意見、提案等を聞くようにしており日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりしている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>定期外出時はもちろんの事、臨時外出時にも利用者状況の変化によりマンツーマン対応が必要となった為事業所より話し合いにより職員の数を増やし臨機応変に対応する処置が取られるようになった</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動は行われてなく、離職交代によるダメージを最小限に防ぐ為に、新しい職員には出来るだけ研修期間を多く設けて早く入居者の方と馴染めるように配慮を行っている。また入居者や家族の方にきちんと紹介を行うようにしている		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修目標を立て取り組んでいる。また年1回はすべての職員に職免による研修制度があり、各自に応じた別途職免研修の制度もある。全職員はSDSによる研修を受けたときも職員会において報告行っており共に学ぶ体制は作られている		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属しており、会への参加や職員研修を通じてのネットワーク、いの町のグループホーム介護支援専門員の会の発足等により、交流の機会を持ち質の向上を図るようにしている。又近隣のグループホームエフヴェールさんとはホームでのボランティアコンサート等の催事に交流を図り行き来している	○	質の向上の確保の為、これからも同業者との交流を図るように取り組んでいく
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。また他の外部研修会参加等でも気分転換を図れる機会を作っている		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年1回の健康診断が実施されており、日頃から管理者より個別の勤務状況等について報告されており資格習得に対しても協力支援おこなっている	○	職員が向上心を持って働ける現場であるよう更に取組んでいきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を把握するように努め、必ず本人に会って心身の状況や本人の思いに向き合い、早く信頼関係が作られるように取り組んでいる	○	これからも本人の思いを出来るだけ早く解り、受け止められるよう取り組んでいく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が今、何に困っているのか、不安に思っていることなどをゆっくり聞き、ホームとしてどのような対応が出来るのか事前に話し合っている	○	これからもご家族の立場に立って、事前に十分時間を設け求めているものはなにか、を把握して行きたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず本人や家族にホームを見学してもらい、本人に会いに自宅に出向いたりして早く馴染みめるように心がけている、又ご本人が入所を納得出来ているかを確認しながら対応している。一度ご家族が利用を急がれた例があり同施設内のディサービス利用されていたのでディの職員に関わってもらったなどの対応を行った	○	本人が職員やサービスの場に徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていけるよう、遊びに来てもらう等その方に合わせた方法の工夫を行うようにしたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係持続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側支援される側という意識を持たずに、お互いが協同しながら和やかに生活できるように場面作りや声掛けをしている	○	これから一緒に過ごし、学び支えあう、関係作りを行って行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく、来園時やお便りや電話等で伝える事により、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていく為の協力関係が築けることが多くなっている	○	これからも職員と家族が本人の生活を共に支援して行く、対等な関係を築いていけるように取り組んで行きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会等を通じてご家族協力の支援の考え方等を折につけ話している。行事には全員の家族の方が「淋しい思いをしないように」と参加され花見と忘年会には、家族の申し入れにより手作りの料理も持参いただき、個別の外出や家庭菜園の野菜本人の好きなおやつを持ってきてくださったりと良い関係が築けている	○	今後もより一層良い関係作りの継続に支援行ってゆきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの美容室を利用されている方や、ホームで開催している絵手紙教室で作成した絵手紙を遠方の方にだす事により電話や葉書が送られてきたりと交流が図れるようにを支援働きかけている	○	出来るだけ今までの人間関係が断ち切れないように支援これからも行って行きたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。またお茶の時間等には職員も一緒に多くの会話を持つようにし、関係作りに配慮したり、作業を通じて利用者に関わり支えあえる環境作りも働きかかっている	○	より一層利用者同士が共に助け合い、支えあって暮らして行く事の大切さを職員が理解して支援できるようにして行く
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されて自宅で過ごされるようになられた利用者のご夫婦宅に訪問したり、行事の案内や日常に遊びに来ていただけるような支援図っており、自宅で取れた栗などを持って遊びにこられている。また新しく入居された利用者の昔馴染みであったりされホームにとっても良い役割を持ってくださっている	○	自宅で生活で出来るようになられた利用者のご家族の負担は大変であろうと思われる、少しでも力になれるように支援行ってゆきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で言葉や表情、行動により出来るだけ本人の思い、意向、希望、は何なのか把握するように職員は努めているが、把握が困難であったり不確かな場合は本人の視点に立って意見を出し合い話し合って家族に意見を伺ったりしている	○	ともすれば職員の都合や思い込みの視点になりやすい、利用者本位とは何なのか原点に戻りながら本人をしっかりと観て支援を検討できるようにして行きたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にセンター方式を利用しながら入所時にバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え聞き取りに協力して頂いている。又記入できるところは手渡し協力いただき把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できる事、もうできない事の把握や出来る可能性、心身の状態の把握等に努めるようにし、気づきノートや日々の記録、申し送り等により本人の全体像を感じとるようにしている	○	日々の変化に注意しながら職員全員が利用者を総合的に見つめる目を養って行きたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族には日々の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている	○	日頃の関わりの中でアイデアを出し合いその人らしさ、環境、公的資源はなにか、より一層全員で探ってゆきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、職員が記録する状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている	○	利用者の変化に応じて見直しが必要な場合は、期日前であっても速やかに関係者と相談し、現状に即した対応をこれからも行ってゆく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや気づきノート、個別記録により本人の変化や状況が全職員に把握できやすいようなシステムを作って情報が介護計画に生かされやすいようにしている	○	記録の大切さは職員良く解っており記入されているが、今後は何を伝えたいのか、どんな関わり方であったのか、必要な記録であるのか等、よりわかりやすい情報の書き方を学ぶ事により計画に生かされやすくなると思うので、書き方を共に学んでゆく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算は摂っていないが訪問歯科や外出困難な利用者に訪問鍼灸治療等の支援が受けられるように取り組んでいる。また本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている、診療所から対応可能な限り往診点滴処置も受けているが重度化、終末期の対応については、事業所の能力もあり一律ではないので明示しない方針である	○	これからも必要な支援について事業所としてなげが出来るのか、考えながら取り組んでゆきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員に民生委員の方がいらっしやり地域の老人会に働きかけて訪問して下さったり、いの町主催の健康祭りに作品を出品し皆で見に行っ地域の方と触れ合いを持ったり、またコミュニティセンターで開催される健康体操、お茶会サロンを利用し地域人の力を借りている	○	これからも地域資源を柔軟な発想を持ち活用できるように取り組みたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスをお願いしたり、外出不可能な利用者には鍼灸師による出張サービスをお願いしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター開催のいの町ケアマネ会に出席して情報を提供したり、また自宅での支援が可能になられてきた利用者の退居の今後について居宅支援事業所と情報交換しながら協働したりしている	○	困難事例が起きた場合は包括支援センターと協働し本人本位の支援に繋げて行きたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する係り付け医となっている。また受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対処している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしており、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体の診療所が神経内科であり、毎日朝礼で入居者の状況を報告しており、月2回往診を受けている。また本人の希望に沿って他の認知症専門医の受診の支援しており、困難な事例が発症した場合は職員が同行し指示や助言をもらうようにしている	○	これからも専門医と連携を取ながら支援行っていく
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は職員の中におらず、また訪問看護の契約も摂っていないが、母体の診療所のドクターと日常的に連絡が取れておりドクターに相談することが多い細かいわからないことは診療所の看護師やディサービス、居宅のケアマネが看護師であり相談している	○	診療所の看護師と今後はもっと連携をとり相談に乗ってもらおうようにする
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時のダメージを極力減らす為支援方法に対する情報を医療機関に提供し、必ず1日の入院であっても利用者の身体の状態の把握に出向き確認を行い病院側と連携を取るようにしている	○	必ず1日の入院であっても利用者の身体の状態の把握に出向き確認を行い病院側と連携をとるようにして行く
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人に対する支援方法を、十分に追求し出来る限りの提供を行っていくが自分達（スタッフ、管理者、経営者、それぞれとそれ全体として）の力を見ることが大切であり十分に検討し支援行っていくことになる、ご家族とは早い段階からかかりつけ医等と職員を交え話し合いを行っているがケースバイケースであり看取りについては明示しない方針であり、入所時には説明を行っているが再度この度の結果を家族会、運営推進会議において説明をおこなった	○	ホームとして出来ること、能力を勘案しながら早い段階から本人、家族、医師と話し合いを持ちながら全員で方針を共有して行きたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	何をどの程度支援できるのか、なにが無理で職員が不安なのか等職員会で話し合い。自分達で出来る精一杯の事を、家族、本人の思い医療支援を勘案しながら話し合いを行ってチーム連携をとっている	○	ターミナルケアは今の段階では、難しいのですが職員は出来るだけ可能な限り、対応できるようにチームの連携を図り支援行っているよう取り組んでゆく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、是までの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、可能なかぎりご家族の承認が得られれば、生活暦等も提供するように努めている	○	利用者の環境や暮らしの変化によるダメージが最小限になるように、関係機関に出来るだけの情報提供を心がけていきたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時にプライバシーの確保の考え方をパート職員もふくめて話している、日常的な介護の現場でもプライバシーに配慮し誇りを傷つけない声掛けや、対応に気をつけるように、日々の関わりのなかで注意するようにしている	○	プライバシーに関する情報の提供や、細かい日常的な支援内容についての考え方について、ミーティング等を通じて行って行くようにする
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側が決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択枠を提案して一人一人の利用者が自分で決められる場面を作っている	○	言葉では十分に意思表示できない場合でも表情や行動から勘案し職員間の連携により情報提供しあい、把握できるように努めてゆきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人の体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っている	○	困難事例にもできるだけ職員が協力しあい社会的資源などの活用も視野に、希望に添える支援を行ってゆきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人に自由に服を選んでいただくようにしている、重ね着や不敵節な洋服を選ばれるかたには、職員がそっと原因を排除するようにしており、美容院もできるだけ馴染みのお店を利用できるように支援を行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒買い物に出かけ食べたい物をその日の食材としたり、調理方法もできるだけ好みに合わしたりしている、また男性利用者に魚を料ってもらったり、出来るだけ調理に皆さんが参加出来るように個々の力にあわせた支援を行い、片付けも主体的にできるように取り組んでいる	○ これからも一人ひとりの好みや力を活かせるように支援してを行って行きたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを嗜まれる方は、現在いらっしゃらないが喫煙は管理の都合によりお断りしている。お酒については他の方に迷惑にならない程度なら支援行っているが、健康上のため止めさせてほしい、とのご家族の希望により支援行っていない例もあり、本人と健康ご家族の思いを勘案しながら支援行っている	○ 少しでも本人の希望に沿うようにするには、どうしたらよいか、皆で話し合い支援行えるようにして行く
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンを把握しさりげないトイレ誘導を試みている、また失敗してしまった時にも極力本人が傷つかないように、手早く回りに気づかれないように処理行うよう配慮している	○ 可能な限りトイレにて排泄できるように支援行ってゆく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴される方や、その日の気分で中止となる方、仲良しの方同士は一緒に入ることもあり、可能な限り本人の希望を取り入れ、タイミングに配慮した声掛けを行い、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援を行っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している	なるべく日中の活動を促し、生活 リズムを整えるように努めている。 また個々の体調や表情、希望を 考慮して、ゆっくり休息が取れる ように支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発 揮してもらえるよう、お願いでき そうな仕事を頼み、感謝の言葉を 伝えるようにしている。	○	一人ひとりにあった楽しみや役 割をこれからも見つけて行くよ うにする
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	本人の希望により家族の協力を 得て可能な限りのお金を持っている 人もいる、家族よりお金を預か り、事業所が管理している人も、 外出時や買い物のお金は自分で 払って頂けるようにお金を手渡 すなどの工夫をしている	○	日常の暮らしの中で、その人の 希望や力に応じてお金を所持し たり、使えるようにこれからも 支援して行きたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごと に合わせて、買い物や散歩、自 宅に訪問したりするようにして いる	○	これからも更に、頻繁に喫茶店 を利用したり、戸外に出かける 機会を多く持てるように取り組 みたい
62	○普段行けない場所への外出支 援 一人ひとりが行ってみたい普段 は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支 援している	月に一度は、車で外出できるように 計画を立て、職員の人員を確保 している。又家族の協力により 故郷に帰られたり墓参りに行か れるかたもいらっしゃる現在は 他に特別な希望がないようであ るが、本人の行きたい希望の場 所としての思いが出された時は 実現する為の方法を職員同士で 検討し、支援につなげている	○	本人の行きたい場所の把握を より行い、外出プランに繋げて 行きたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している	毎月絵手紙教室で描いた葉書や、 年賀状をだせるように支援行っ ている、また居室に電話を設 置されている利用者も居り、電 話の訴えのある利用者には使 用できるように支援行っている。	○	これからもご家族や遠方の知 人等、とのやり取りを通じて 本人の、書く力や電話を使用す る力を個別に支援行いたい


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず、ご家族の都合のいい時間に、いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。ホームの昼食を一緒に取られるご家族や、お弁当を持参され居室で一緒に食べられるご家族もいらっしゃる。	○	これからも気軽に訪問できる雰囲気作りに努めてゆく
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度は県の勉強会に参加し高齢者身体拘束に関する勉強会を職員会で実施し、職員の共有意識をより図るようにしている	○	身体拘束に対する正しい理解を全職員が持つ事により、身体拘束をしないケアの実現につながると思われる為、マニュアルを基に日々のケアの振り返りを行って行くようにする
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠同意書を作成し同意いただいているが、鍵を掛けないケアを目指している職員気がつかぬ間に外出された例があり入り口にセンサーマットを設置したが、見守りや職員連携を図り利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒にいていく等、安全面に配慮し暮らしを支えることが出来るように、また本人が外に出たくなる理由、行きたい先を探るようにヒアリング作成等により改善を図りながら支援している	○	鍵を掛けないケアは出てゆく気配を職員が見落とさない見守り連携プレーが必要であり、利用者の一人ひとりの外出の思いや傾向をつかみ、ストレスの緩和や本人の思いを把握することを一層強化させていく必要があり全職員で取り組んでゆく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録などの事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子を確認すると共に、起きられた時にすぐ対応できるように必要な方には離床センサーを使用して対処図っている	○	これからも安全確認を行ってゆく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化を気づきノートなどにより共有把握しており、それによってケースに応じた対応を図るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒアリハットを記録し、職員の共有意識を図っている。万が一事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族、運営推進会議等に報告行っている	○	これからもより一層事故防止に努めるよう取り組んでゆく
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が応急手当の勉強会（実技含む）や外部研修を実施し、体験・体得・習得するようになっているが、現場で実際対応できるかは不安がある、応急手当のビデオにより継続学習に努めるようにしており、夜間緊急時対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を図っている	○	すべての職員が手当てに対応できるように定期的に訓練できるように更に考えてゆく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている、また地震発生を想定し訓練を行っており、災害に備えて食料や飲料水、トイレ（排泄）防災グッズ、等を用意している地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている	○	地域の近隣の方との交流が図れるように努力して行き、協力体制が獲られる関係作りを図れるようにして行きたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こりうるリスクについてその都度説明し、その上で事業所としての工夫や取り組み方針について話し、力の発揮や本人が生き生きと活動できる生活を見ていただくことにより、リスクに対してどう対応するのか話し合いを行って理解を得られるように努めている	○	状況変化に応じてその都度説明し、話し合い抑圧感のない暮らしに向けて、理解を得られるように努めてゆきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化等気づいたことがあれば、直ぐに管理者に報告すると共に職員間で共有し、対応にあたっている	○	これからも、全職員が体調の変化を見落とさないように取り組んで行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服薬できているかの確認もしている	○	これからも服薬の内容等を全職員が把握し変化にも対応でき報告できるようにしてゆく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便秘の原因をさぐり、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れるようにしている、また活動により体を動かす機会を散歩や体操、日常の家事労働の中で作り出すようにして、自然排便できるように取り組んでいる	○	個々の排便のリズムや原因を把握しその方に合わせた支援を行って行きたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けや支援をその方の力に合わせて見守ったり、介助を行ったりしている、又個別の必要な方には、ご家族と相談の上、訪問歯科の口腔ケアを受けている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。また1年に一回は栄養士の専門アドバイスを受けるようにしている。	○	献立が偏りやすくなる為、栄養士の専門アドバイスを受ける事をこれからも継続して行き、職員全員が知識や意識を持ち続けられるようにする
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	事業所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し全職員で学習して予防に努めている、また利用者及びご家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種をうけており、外部からの来園時には手洗いうがいの施行をお願いしている	○	これからも起こりうる感染症を予防するように対策を執ってゆく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所の水周りの清潔、衛生を保つよう、職員取り決めのマニュアルがあり実行している、3日に一度の買出し日があるがそれ以外にも鮮度が大切な食品はその日に購入したり、新鮮で安心した食材を使用するように心がけている	○	衛生管理に職員間のずれが生じないように確認しながら行ってゆく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームが二階で入り口がわかりにくい為、入り口に手作りのひまわりの看板を掲示し、プランターに季節の花を植え入居者と日々世話をを行うようにしている、また玄関の飾りは職員持ち回りで担当を決めマンネリ化しないように工夫している	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井から太陽の光がコンピューターにより管理され、やさしい光が差し込み陽だまりのようなあたたかさが自然に作り出されている。季節に合わせた野の草花や、行事の飾りつけ等は利用者と共に相談し行うように工夫している	○ 五感や季節感を意図的に採り入れる工夫をこれからも行ってゆきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファーや古いオルガンを利用した1人がけのテーブルや、職員机の後ろのソファー等、入居者はそれぞれの場所で過ごされています	○ これからもその方に合わせた空間作りを考えてゆきたい
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な方には自宅を訪問させていただき、使い慣れたものを本人と家族と一緒に選んでもらい見慣れた安心できる居室作りを心がけているが、持ち込み時にご家族の思いで変更になり新しい物に変わっている時も観られる	○ 入居時に十分に馴染みの調度品の大切さを、お話しご理解いただけるようにして行きたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂・ホール・各部屋ごとに冷暖房の使用が出来るようになっており温度調節も各部屋ごとにできる。また夏場にはホール各部屋に扇風機が置かれ、状態に合わせて使い分けている、また窓もその時々に合わせて開閉している。尿臭が気になる部屋には消臭剤、換気扇を使用し、冬場はホールに空気清浄機を使用している	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場・ホール壁面に手すりを配置している。また夜間トイレの戸が動くとき危ない方には戸詰めを行い危険のないようにしたり、物干し竿を一段低くしたり工夫している	○ 一人ひとりの機能に合わせた工夫をこれからも行って行きたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜中居室内トイレの電気が目に入るように一晩中灯りをつけ、戸の開ける幅もその方に合わせるように工夫している。居室入り口の表札をその方の目線に合わせてたり、タンスに何が入っているのか、張り紙をしたりしてその方に合わせた支援を考えるようにしている	○ 本人にとって何が混乱の原因なのか職員同士が情報を共有しながら考え支援してゆきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには草花を植えたりしているが、話し声が少しでも聞こえると隣家より抗議が入る為、ベランダには複数で出ることが出来ないため、建物の道路に面したところにプランターを置き、花を植えたり、診療所の庭を開放してもらい畑として活用し出かけて行くようにしている	○ 畑は少し遠いのですが、できるだけ皆で時間を作るようにして、利用して行きたい

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

6人の小グループの利点を活かし、お一人ひとりの持っている強さに着目し、力の発揮ができるように職員は互いに気づきを共有する事に努め「自分らしく暮らし続けること」の支援をめざして、主体的に入居者様が生活して頂けるように取り組んでいます。

入居者様同士の助け合いの場面が見られたり、生き生きとした表情や、明るい笑顔、笑い声の耐えないアットホームな施設です。

また地域の方々からは、あたたかいお声がけを頂いたりしながら暮らすことが出来ています。ご家族と職員は、信頼関係が作られておりホームでの行事には積極的な協力があります。事業所は正職員パート職員に関係なく、統一した質の確保の為同じ教育が受けられるシステムになっております。